前川崎市議会議員　2012年9月号 No. 69

ほりぞえ健（けん） ニュース

川崎市高津区下作延4―22―12―411
電話&FAX 044―877―6317
ホームページ　http://www.horizoe.com
電子メール　horiken@horizoe.com

帰宅困難者の一時滞在施設
～溝の口駅周辺では６か所を指定

（事務局）
　７月に改定された「川崎市地域防災計画（震災対策編）」では、帰宅困難者対策についても新たに記載されたそうですね。

（堀添）
　地震が発生した時間帯や曜日によっても異なってきますが、今回の東日本大震災のように平日の日中に地震が起きると、多くの帰宅困難者が生み出されます。首都圏では直接の被害が発生したわけではありませんでしたが、公共交通機関の運行停止等により、道路には深夜に渡って徒歩帰宅者が多数みられました。
　今回の見直しでは、そもそも帰宅困難者を発生させないための取り組みを重視しています。企業等に対しては、従業員の職場での待機を勧めるとともに、食料等の備蓄や安否確認体制の整備、一時収容体制の促進などを働きかけています。
　基本は「むやみに移動を開始しない」ということを徹底することになりますが、それでも人の滞留が発生することが予測されます。そうした方々に対して、幹線道路沿いの公園の活用や災害時帰宅支援ステーションの充実とともに、一時滞在施設を確保することが進められています。

（事務局）
　一時滞在施設とはどのようなものですか。

（堀添）
　帰宅困難者など、一時的に滞在が必要な方々に対する支援施設となります。主要ターミナル駅から２Ｋｍ前後までの距離にある施設で、耐震対策がされており、避難所として指定されていないものが対象となります。
　規模としては延べ床面積が１，０００平米以上で、事前に指定された建物です。
　今回、川崎市全体では、生活文化会館（てくのかわさき）など公的１７施設、民間１施設が指定されました。このうち、高津区内では、武蔵溝ノ口駅周辺６施設が対象となっています。
　今後、民間施設を中心にさらに充実させていくことが必要だと思います。

（事務局）
　ありがとうございました。

●1963（昭和38）年２月６日、高津区に生まれ、高津小学校出身。桐朋中学、高校を経て東京工業大学を卒業。
●東京都三鷹市で９年間、地域情報化やプライバシー保護等に従事。
●セブン―イレブン本部での情報システム構築をはじめ、ITを活用したシステムづくりに従事。
●2003年4月、川崎市議会議員に初当選。
●2007年4月、同２期目当選。
●2011年4月、同３期目挑戦するも惜敗。
●民主党神奈川１８総支部　幹事長
●民主党神奈川県政策委員
●川崎地方自治研究センター客員研究員
●経済産業省　システム監査技術者
●妻と長女の３人家族　下作延在住

川崎市における放射線測定結果（9月11日現在）

浄水場：川崎市内の2か所の浄水場では、毎日放射能測定を行っていますが、昨年４月２２日以降、放射性ヨウ素、放射性セシウムとも検出されていません。

大　気：公害研究所（川崎区）、麻生大気測定局で、放射線量実態調査を毎月行っており、地上５ｃｍ、５０ｃｍ、１００ｃｍとも自然界の放射線レベルの範囲内です。（８月は９日に実施）

市内農産物：果菜類（トマト、きゅうり）、根菜類（さつまいも、大根、玉葱）、果実（梅、梨、柿）の出荷前チェックでは、昨年５月に梅（セシウム：２９．５ベクレル）、１０月に柿（セシウム：４．５ベクレル）から検出された以外は、検出されていません。
（食品衛生法上の基準値は一般食品１００ベクレル/Kg以下、乳児用食品と牛乳５０ベクレル/Kg以下、飲料水１０ベクレル/Kg以下）

農用地土壌：多摩区の畑（露地）で５月２３日に県が実施した土壌調査では、合計２９ベクレル/Kgのセシウムが検出されました。（上限は５０００ベクレル/Kg）

下水汚泥等：入江崎総合スラッジセンター（８月２７日測定）　放射性セシウム測定
脱水汚泥：２１ Bq/Kg　　汚泥焼却灰：９２６ Bq/Kg
（焼却灰は飛散防止処理の上、施設内等で安全に保管されています。）

ごみ焼却灰：橘処理センター（８月１４日測定）　放射性セシウム測定
主灰：１１６ Bq/Kg　　飛灰：３３０ Bq/Kg　　排ガス：不検出
（飛灰は飛散防止処理の上、臨海部保管施設等で安全に保管されています。）

放射線測定器の貸し出しを高津区役所でも行っています。
（電話予約が必要です。 044－861－3113）

連載コラム

川崎と高津の地名（No.３）

参考：
日本地名研究所編「川崎の町名」

「溝口」の由来

今回より、いよいよ各字名の由来に入ります。最初は、郵便番号の一番若い「溝口」です。私の生家は現在の二子一丁目にあり、すぐ隣は溝口でした。通った高津小学校も溝口にありましたので、ここには当時の友人も多く住んでいます。

溝口の地名の表記はいくつかあり、行政の公式文書では「溝口」と書きますが、南武線は「（武蔵）溝ノ口」駅、田園都市線は「溝の口」駅、風土記では「溝之口」と表記されることもあったようです。

溝口の地名の由来は、小田原北条氏の家臣、海保新左衛門が「溝之口村」を領有していたとの記録が残っていることから、少なくとも江戸時代以前にさかのぼれるようです。「高津村風土記稿」によれば、「古代に陸地化された平坦地の低地には多摩川や平瀬川からの分岐水路が網の目のように流れていた。この水路の水口に位置したのでいつしか「溝の口」の地名が起きた」と記されています。

また、別の説として「二ヶ領用水の取水口に関連して『溝の入り口』から溝の口となった」というものもありますが、二ヶ領用水ができる以前から溝口の地名がありましたので、先ほどの「高津村風土記稿」に記載されている説の方が正しいようです。

なお、あまり知られていませんが、昭和２６年まで、溝口には飛地がありました。現在の宮崎駅北側の花の台付近で、溝の口村の入会地（村の共有地）として当時の土橋村の中に４町（約４ｈａ弱）程度あったようです。この飛地は、明治２２年に溝の口村が高津村に統合され高津村大字溝口となり、さらに高津村が高津町となり、川崎市に編入された後も残りましたが、昭和２６年に宮崎に編入されました。

政治資金ご寄附のお願い

地元から日本改革を実現するために、ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

「ほりぞえ健後援会」宛

郵便振替：高津郵便局　口座００２７０－１－２４１６９
銀行振替：川崎信用金庫　高津支店　普通０７９６２９４